

令和2年度「新しい東北」官民連携推進協議会
宮城県 実践の場

まちづくり分野 名取市関上中央地区資料

関上中央地区のコミュニティ活動

～持続可能な組織づくりの進め方の一事例～



名取市関上中央地区



位置図

はじめに

閑上中央地区の概要

1 場所

名取川右岸、閑上漁港にも近く、平均 4 mの盛土を行い海拔 5 mとなった土地区画整理事業区域

2 人口等

① 人口 707人、高齢化率 22.7%（戸建）、40.5%（集合住宅） 令和2年10月末現在

② 世帯数 318世帯

③ 住宅・住民の構成 防集移転先団地、復興公営住宅（戸建）、復興公営住宅（集合住宅）、一般換地の住宅で構成され、住民は被災者、被災者以外の市内、市外、県外からの転入者

閑上中央町内会等の概要

1 設立 平成31年3月9日

2 会員等 約280世帯、役員・班長26人、活動財源 会費500円／月、宮城県補助金 200万円

発表者 閑上中央町内会長 長沼俊幸

58歳、自営業、震災時自宅が約 2 km流され、翌日屋根の上で救助された。その後、愛島東部プレハブ仮設住宅で、自治会総務を務めた。この頃に、市内外の支援者と繋がりができ、今日まで続いている。平成29年7月に当地区に自宅を再建

発表補助者 名取市建設部閑上・北釜整備課 課長補佐 佐藤 浩 平成28年度からまちづくり担当

● 1. 取組みの紹介

設立の経緯と目的

平成29年7月、名取市の呼びかけにより住民が集まり、**集会所建設のワークショップ**を開催、併せて自治会設立の意見交換を行った。

これを契機に、**住民有志の会**を設立、住民交流会、サロン活動、地域住民活動アンケート、研修会などで、住民同士が顔見知りになり信頼関係を構築、町内会設立の機運が高まった。

これを受けて、平成31年3月に**閑上中央町内会**設立総会行い、町内会活動を開始した。

取組み内容

- ・ 夏まつり、芋煮会など住民交流会の開催
- ・ サロンの開催
- ・ 子育てママ交流会の開催
- ・ 地域清掃
- ・ 自主防災組織の設立、防災訓練の実施、地域安全マップの作成
- ・ 子ども会準備活動
- ・ 他の住民組織との連携・協力
- ・ 外部支援団体との連絡調整
- ・ 集会所の管理
- ・ 市との情報交換、市への提案



令和31年3月9日 閑上中央町内会設立総会

○取組の詳細 その1

段 階	概 要	補 足	写 真
<p>集会所ワークショップ 平成29年7～9月 3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集会所に関する意見交換会 (集会所の配置、間取り、利用について検討) ・住民への情報提供、住民との情報共有 ・お茶とお菓子を提供 	<p>中核メンバーへの声掛け (防集移転先団地と戸建住宅に個別にアプローチ) 参加者は9名(防集のみ) 町内会を作ろうでは集まらない。 42畳の集会所、隣接するポケットパークと一体利用できる配置</p>	
<p>住民顔合わせ会 11月～30年4月 3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現地でのお茶会 (集会所建設予定地や近くの集会所) ・名札と記念撮影 ・案内や開催結果を每户配布 	<p>顔見知りになることが大切 防集と戸建住宅の融和 協力者のスカウト(連絡先を交換し、次回にお誘いの電話) 交流会には、必ず市長か部長が出席=安心感</p>	
<p>住民有志の会設立 30年5月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西松建設まちづくり助成金 締切り1週間前に住民に相談し、締切り5分前に申請 ・16名でのスタート 防集10(5名は建築中) 戸建5、一般換地1 	<p>活動資金の確保 活動主体の設立 申請書類は市が作成 顔合わせの効果で、協力者をスムーズに選出</p>	

○取組の詳細 その2

段 階	概 要	補 足	写 真
<p>住民交流会 6月お茶会 8月納涼会 広報板設置 8月～サロン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有志の会による案内 「子供たちの笑顔、楽しい。」 ・イベント後の反省会 ・情報共有（活動の報告、交流会の案内、結果のお知らせ） ・一般換地への声掛け 	<p>学生、外部団体による支援 ＝イベントの質の向上 「自信と喜び」⇒次も頑張ろう 市が案内を作成し、住民が声掛け 会議は常にオープン 情報を共有し協力者を広く募集</p>	
<p>閑上中央集会所 9月お披露目会 10～3月集会所の 試験運用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集会所開館お披露目会 「住民や地元高校生による演奏、ボランティアによる演舞」 「住民と支援者 200 人が交流」 ・集会所を有志の会で管理 	<p>尚綱学院大学、尼崎西高校、どつと、なとりが協力 「笑顔」と「感謝」が大切 活動拠点の確保 3月までの光熱水費を市が負担 ＝自治会設立の準備期間</p>	
<p>住民主体の交流会 11月アンケート 懇親会 12月集合住宅入居 開始、クリスマス会 31年1月新年会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民活動のアンケート ・日中参加できない人のための懇親会（自己負担で酒有） 「アンケート結果の共有」 ・新年会「昼の部、夜の部」 ・集合住宅への声掛け 	<p>町内会設立の必要性を共有 ～住民融和が進み、町内会設立の機運が高まる～ さまざまな住民への配慮（異なった時間帯で開催） 住民による積極的なお誘い</p>	

○取組の詳細 その3

段 階	概 要	補 足	写 真
<p>自治会設立研修会 31年2月 自治会設立準備会 31年2～3月 設立総会 3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会1回 52名 ・準備会4回 世話役28名 (防集14、戸建7、換地6、集合1) ・150世帯中64人が参加、72人が委任(90%) 	<p>スライドで活動を総括、コミュニティ補助の説明、世話役を選任資料は市が作成、準備会は毎週皆が顔見知りなので、どんどん決まっていく。</p>	
<p>閑上中央町内会 4月～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民交流会 ・サロン ・地域清掃 ・自主防災組織設立、防災訓練 ・市との情報交換、市への提案 	<p>宮城県地域コミュニティ再生支援事業補助金の活用 ボランティア、外部団体との交流が続く。 毎月の班長会議(約30人)で情報を共有し活動</p>	
<p>閑上地区 まちびらき 令和元年5月26日</p>	<p>実行委員会 30年8月～10回 8会場同時開催、2万人が参加 閑上中央町内会は集会所で交流。どっと、なとりと尚綱学院大学はスタンプラリー 笑顔、感謝</p>	<p>民産学官の連携(26組織) 住民、企業、NPO、大学・高校、商工会、農協、国交省、名取市 さまざまなアイデアがでる。 参加者が顔見知りになり、相談できる。必要に応じて集まれる。</p>	



花見まつり



クリスマス会



子育てママ交流会



避難訓練



夏まつり



役員班長合同会議



もちつき大会



サロン FGH会



サロン

● 2. 何が生まれた？なぜできた？

こんないいことがあった（成果）

- ・ 行事で多くの住民の積極的な協力が得られる。
- ・ 住民同士が気軽に挨拶や話をするようになった。
- ・ 住民同士の関係がよく、暮らしやすさを感じ、ずっと住み続けたいと思っている住民が多い。
- ・ 集合住宅と戸建て住宅が混在していても、関係性が良い。
- ・ 町内会費の滞納がほとんどない。

連携の体制・関係者

- ・ 名取市サポートセンターどっと．なとり
- ・ 尚綱学院大学
- ・ ここいる（名取市子育て支援拠点施設）
- ・ 地域包括支援センター
- ・ 県内外の大学、高専、高校、民間企業団体
- ・ 民生・児童委員
- ・ 名取市

なぜ実現できたか？ 工夫や得た教訓・ノウハウ

- ・ 住民交流会、サロン、住民アンケート、研修会、住民総会など住民同士が顔見知りになり、信頼関係を深められるよう、多くのステップを踏み十分な時間をかけて取り組んできた。
- ・ 外部支援者との繋がり、交流を大切にしてきたこと・・・仮設住宅時代等の支援団体と交流活動を続けてきたこと。
- ・ 広報に注力したこと・・・行事や会議の実施前に案内チラシ、実施後に報告チラシを配布、掲示。これにより、行事に参加しなかった住民も行事の内容を理解でき、次の行事の参加動機や町内の動きが分かるようにした。
- ・ 役員会に班長も参加したこと・・・毎月2回行っている役員会に常に班長が加わることにより、情報が直接的に共有でき、行事実施時も役割分担が明確で、各自が主体的に取り組むことができ、また、住民の協力を得やすくなった。
- ・ 集会所ができたこと・・・手狭な仮設公民館に代わって自前の集会所により、会合や行事が必要な時に円滑に行えるようになり、住民の協力が得やすくなった。
- ・ 道路、宅地、公共公益施設、スーパーなどの施設が順を追って整備されてきたことにより、閑上地区の復興が着実に進展していることを住民が実感できた。

● 3. これからのこと

継続のために工夫していること

- ・ 地域住民全体で情報提供、情報共有を進める。
- ・ 外部支援者との交流継続、繋がりを大切にする。
- ・ 行事参加者が楽しい、役員・班長などもやって楽しい、喜んでもらって嬉しい。
- ・ 巻き込み力を身に着ける、協力者を見つける。
- ・ 女性パワーの活用。
- ・ 排除の論理を排除し、考え方の異なる人も受け入れる。
- ・ 公平性だけを追求しない。集合住宅と戸建て住宅はその特性に応じ会費が異なる。

課題とその解決の目安（あれば）

- ・ ハード面の復興、進捗に心がついていけない住民がいる……大きな課題
- ・ 震災前の閑上地区は、行事が多く、地区全体で行われることが多かったが、現在は町内会単位で行われることが多いのが現状……今後3つの自治組織の連携協力を進める必要
- ・ 若い世代の行事、会合への参加促進……若い子育て世代の転入が多く、活動に厚みを出す。
- ・ 子ども会づくり……令和3年度に設立したいと考えている。
- ・ 交通安全施設等の設置

● 4. さいごに

この10年を踏まえて、全国に伝えたいこと

- ・全国や世界からの支援に対し、心より感謝したい。
- ・自分たちの経験や教訓を伝えることにより、災害への備えや地域の課題の解決に役立ちたい。
- ・他の地区の被災者には、支援を遠慮なく、上手に受けるようにお勧めしたい。
- ・地域住民には、様々な職業、技能を持った人、また、そうした人を友人に持つ人がいる。そのような人材を発掘し、活動の手助けをもらう。
- ・ハード面の復旧、復興は時間とともに進むが、精神面・心の復興は人それぞれに進展が異なること。
- ・震災から復興した姿を見てほしい。関上には、遊び場、食べどころ、温泉もあり、ご自身の目で確かめてほしいので、是非お越し下さい。



サイクルスポーツセンター 10月オープン



カーナくん



関上港と水産加工団地